

今月のトピックス 「イチゴのハダニ類について」

1. イチゴのハダニの種類

カンザワハダニ（赤色）とナミハダニ（主に薄緑色）が主体ですが、本県では近年ナミハダニが多くなってきています。ナミハダニは色が目立たないので多発するまで気がつかないことがあります。ハダニ類は、かすり状になった葉の食害痕を目印にすると初期発生のうちから見つけやすいでしょう。



図1 ナミハダニの被害



図2 カンザワハダニ

2. 防除について

1) 育苗期

ダニがいなければ防除の必要はありません。発生している場合は、本圃で使いにくい薬剤や安価な薬剤を使いましょう。

2) 定植前

ダニを本圃に持ち込まないように、徹底した薬剤防除が必要です。

3) ビニール被覆前

被覆後は防除しにくくなるので、念入りに防除をしてください。

4) 本圃

天敵のチリカブリダニを使うことができます。

薬剤で防除する場合は、次の点に注意しましょう。

- ・収穫前日数の厳守
- ・ミツバチへの影響

・チリカブリダニを導入の場合はそれに対する影響

5) 全期間での注意

圃場の近くでハダニが発生している場合、その場所の除草や防除によってイチゴの圃場にハダニが逃げてくる可能性があります。葉かきした葉も圃場の近くには捨てないようにしましょう。

3. チリカブリダニの使い方

ボトル入りで販売されています。より効果的に導入できるように、普及センターや販売所と相談してください。本県ではイチゴ以外の用途も含めて下表のように多数使われており、イチゴ農家にもたのもしい助っ人となってきています。



図3 チリカブリダニ(農業研究所提供)

表1 三重県におけるチリカブリダニ剤の出荷量

資材名	19 農薬年度	20 農薬年度 (現在まで)
チリカブリダニ剤	1607 本	1696 本

ハダニが発生しているけれどもまだ低密度という時期が最適な導入時期です。発生密度の低いうちに使用すれば、収量・品質にほとんど影響を与えず防除できる可能性があります。

ある程度ハダニが増えてしまったら、導入前または導入後に農薬で密度を下げなければなりません。他の病害虫の防除も必要になるかもしれません。どの農薬がチリカブリダニと併用して使えるかは、普及センター等に相談してください。